

## びわ湖トラスト親子環境学習講座

～megumiに乗船B～ 報告書



認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日 : 2022年8月9日(火)  
 後援 : 大津市教育委員会  
 協賛 : 公益財団法人 平和堂財団  
 参加者 : 往路 大津港 7組 17名(大人:6名・子供:9名)  
 復路 長浜港 7組 16名(大人:8名・子供:8名)  
 スタッフ: 10名(講師・ボランティアスタッフ含む)

## 行程

【往路】大津港発 → 長浜港着	【復路】長浜港発 → 大津港着
8:30 受付開始	12:30 受付開始
8:45 乗船開始	13:00 プランクトン採取の見学(長浜港)
9:00 大津港 出港	13:05 乗船開始
オリエンテーション	13:10 長浜港 出港
船の構造などの紹介	オリエンテーション
親子環境学習上の注意事項	船の構造などの紹介
トラストの活動紹介	親子環境学習上の注意事項
一瀬諭先生プランクトン講義	トラストの活動紹介
プランクトン観察(南湖:浜大津)	一瀬諭先生プランクトン講義
講義・質問	プランクトン観察
実習 顕微鏡観察 南湖	(北湖:長浜港・南湖:浜大津)
10:35 多景島 停泊	講義・質問
プランクトン採取の見学	実習 顕微鏡観察
10:50 多景島 出港	(北湖:長浜港・南湖:浜大津)
実習 顕微鏡観察	15:30 大津港 停泊
(北湖:多景島)	講義・質問
11:00 長浜港 停泊	まとめ
11:40 まとめ	16:20 下船 解散
12:30 解散	

新型コロナウイルス感染症対策として、

- ・定員を減らしてスペースを確保
- ・マスクの着用
- ・手指消毒(顕微鏡観察時はゴム手袋着用)
- ・実施日までの3日間の健康観察と受付時の検温

などを行った。





コロナ禍で定員を減らしての実施が続いていたが、今年度は少しでも多くの方に講座を受講していただきたい、そして琵琶湖の北に住んでいる方にも参加しやすいようにということで、航路を

- ① 大津港発・長浜港解散
- ② 長浜港発・大津港解散

という大津と長浜を往復する2便を運航。参加者は片道のみ乗船となり、長浜港で入れ替えを行った。



びわ湖のプランクトンの講師には一瀬諭先生を迎え、ジュニアドクター育成塾の中学生や水産学を学んだ方もボランティアスタッフとして参加。

この講義では、南湖と北湖のプランクトンの種類や量がどのように違うのかを見比べる。講義の合間に、びわ湖大橋の下をくぐるのを眺めたり、多景島や沖の白石を見た。



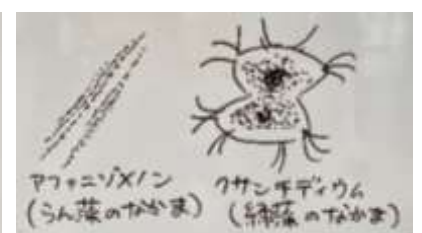
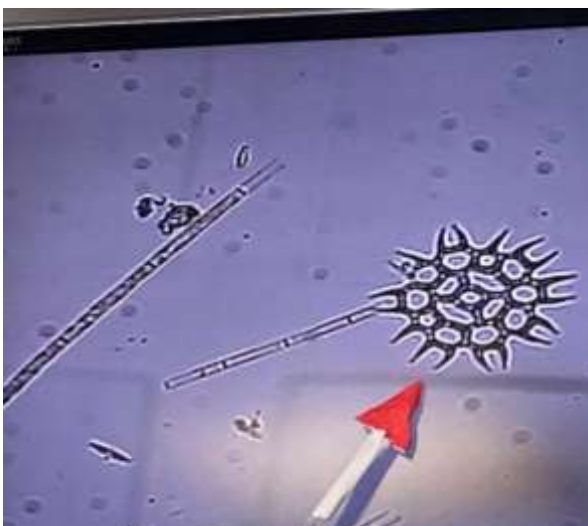


プランクトンの採取は、南湖では集合前に先生が大津港で事前に行ってくださいました。北湖は参加者に採取の方法を見学してもらうため、往路では途中多景島に停泊して船の後方から、復路は出発前に長浜港で行った。

先生は採取の時も、プランクトン観察についてもその方法を詳しく説明。それ以外にも、言われるがままやるのではなく、自分で考えて行動することはとても大切だということ、そしてプランクトン観察としてレポートを作成するにはどういう風に書くことが大切なのか、ということも指導して下さいました。



モニターを使っの顕微鏡観察では、先生が顕微鏡で見つけたプランクトンをモニターに映し出し、次々とプランクトンの名前やどういう仲間なのか、などの説明をしてくださいました。参加者に配布した一覧にないプランクトンは、助手の方がホワイトボードに素早くスケッチして記録。





顕微鏡観察の実習では感染防止対策としてゴム手袋を着用して観察。細かい作業をするには少々やり辛い様子だったが、南湖と北湖のプランクトンのどちらも自分の目で観察し、一覧表だけでは判断できない時は、プランクトンの名前を先生に質問していた。

まだ小学校で顕微鏡の使い方を習っていない学年の参加者もいたが、連絡していた通り事前に学習されていたようで、それほど手間取らずに観察できた様子だった。



プランクトンとは何なのか？びわ湖の固有種ってどんなものがあるの？プランクトン博士になるには？などの疑問も大歓迎。毎年この親子環境学習講座に参加の方々が、環境やびわ湖の現状にたくさん関心を抱き、それを継続していただければと切に願う。

1日に2便運航して参加者を入れ替える、という初めての試みは、昨年までの講座と比べて少々授業スピードが速く、慌ただしい気がした。

参加者に船でゆったりと外を眺め、素敵な琵琶湖の景色を体感できる時間をもう少し増やすなど、カリキュラムの改善が必要だと感じた。



今夏のmegumiに参加された方から、一瀬先生の宿題であったプランクトンスケッチを提出下さっただけでなく、プランクトン観察を自由研究として学校に提出したとか、学校に出した宿題が科学博物館に展示されることになった、などの連絡をいただいた。

これからもたくさんの方々のことを吸収して、次世代の人々が暮らすびわ湖や地球の環境を考え、さらにその次の世代へと受け継ぐためにより良い環境を作ってもらえるきっかけになれば幸いです。

【参加者のプランクトンスケッチ】

